昭和46年開校
平成25年CS指定

野火止小だより

学校地域教育目標
考え学ぶ子　仲よくする子　たくましい子　地域を愛する子
野火止小は保護者や地域と共にあるコミュニティ・スクールです

１０月号　令和８年９月30日
新座市立野火止小学校
校長　若林　寿
新座市野火止 4-9-1
048-477-1211
児童数５２８名
学級数２１学級
野火止小 HP

のびのび✤プラス
１０月の生活目
協力して行事に取り組もう！

『It Takes a Village　村中みんなで』
～コミュニティ・スクール野火止小の新たなる挑戦～

心地よい秋風とともに２学期がスタートし、早くも一カ月が経とうとしています。学校運営協議会、PTA、学校応援ボランティア、そしてゲストティーチャーの皆様。日々、学校に寄り添い、温かい手を差し伸べてくださるすべての方々に、心より感謝申し上げます。先日、５年生の「のびっ子田んぼ」にて、黄金色にたわわに実った稲の刈り入れと脱穀が行われました。豊年満作！地域の手厚いサポートに守られ、20年もの長きにわたり続いてきたこの実りある体験。それは過去の踏襲にとどまることなく、毎年鮮やかにアップデートされ、今も子どもたちの生きた学びの場を創り出し続けています。

さて、アフリカの古いことわざに、このような言葉があります。「It Takes a Village to Raise a Child（子ども一人を育てるには、村が丸ごと一つ必要だ）」。かつて米国のヒラリー・クリントン氏が著書(1994年出版)のタイトルにしたことで世界中に広まったこの言葉は、「子育てや教育を家庭や学校だけで背負うのではなく、地域社会全体で子どもを包み込もう」という大切な理念を私たちに教えてくれます。本校には、学校運営協議会をはじめ、子どもたちの学びや登下校を日々支えてくださる充実した「学校応援団」、そして学校と家庭の架け橋である「PTA」の力強い活動があります。これらこそが、野火止小が誇るかけがえのない「村の基盤」に他なりません。

今年度、元祖コミュニティ・スクールである野火止小は、この強みをさらに進化させます。米国発の包括的支援モデル「FSCS（フルサポートコミュニティ・スクール）」の発想を導入し、学校を従来の教育の場から「生活と福祉のハブ（拠点）」へと発展させ、子どもと家庭を支える、新しい挑戦を始めます。この秋からは、主任児童委員(民生児童委員)や社会福祉士(ソーシャルワーカー)といった専門的知見を持つ方々に、本校の「コミュニティ(地域)・コーディネーター」として正式に参画いただきます。これにより、これまでの温かい地域活動に「福祉」のネットワークが融合し、より重層的なサポート体制が実現します。

🌟 新たな「村のカタチ」をつくる２つの柱

【ワンストップの相談窓口（学校を地域のセーフティネットに）】

子どもが落ち着かない、不登校気味であるといった姿の背景には、学校の外にある多様な要因が隠れていることも少なくありません。専門知識を持つコミュニティ(地域)・コーディネーターが学校と連携し、家庭と繋がることで、小さな困りごとを素早くキャッチし、適切な行政支援や福祉サービスへと直接つなぎます。「地域が見守り、専門家が動く」。このハイブリッドな連携により、誰一人取り残さない包括的なケアを目指します。

【コミュニティ・スペース(2階CSルーム)の設置】

「野火止という温かい村」を共につくるためには、学校が敷居を低くし、地域の中に深く溶け込むことが大切です。そこで、2階のCSルームをコミュニティ・スペースとして開放します。地域コーディネーターや学校応援団、PTA、そして来校された保護者の方々がホッと一息つける居場所とし、子どもたちや教職員との温かな触れ合いの場を育んでまいります。

学校応援団の皆様の温かい眼差し、PTAの皆様の圧倒的な行動力、そして専門家の皆様の確かな知見。このすべてが美しく織り合わさるとき、野火止小学校は子どもたちにとっての「最高の村」へと進化します。この10月から、私たちはこの歩みを一歩ずつ踏み出します。

子どもたちの笑顔あふれる未来へ向けて、コミュニティ・スクール野火止小の挑戦は、これからもまだまだ続きます。のびのび🍀プラス！

To be continued…